

国際交流つうしん



P.2 2024リトアニアウィーク



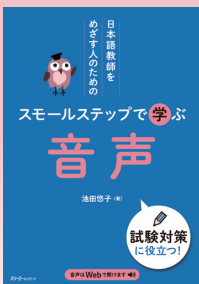
P.6 イーグル・アフガン明德カレッジ

目次

- P.2 リトアニアウィーク事業報告
- P.3 外国人相談体制を強化しています!!
- P.4～5 事業報告（令和6年3月～6月）
- P.6 団体活動紹介 ～イーグルアフガン明德カレッジ
- P.7 JICA千葉デスクのページ
- P.8 千葉県から世界へ！ ～アルゼンチン共和国～

広告

「日本語を教える」としたら **スリーエーネットワーク**



一歩ずつ無理なく着実に学習できる一冊!
**日本語教師をめざす人のための
スモールステップで学ぶ 音声**

池田悠子 著
2,200円(税込) B5判 181頁

日本語教師になるための試験の中で特に重要な音声を学習。見開き2頁で解説と問題に取り組めます。『文法』好評発売中、『教授法』10月発行予定。



詳細は
コチラから

最新刊や教材の使い方動画の情報等は <https://www.3anet.co.jp/>


広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は **出入国在留管理局への出頭が免除**されるので、**仕事や学業に専念**することが可能です。



お問い合わせは…

 **千葉県行政書士会**

www.chiba-gyosei.or.jp/

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号
TEL: 043-227-8009 FAX: 043-225-8634



2024 リトアニアウィークが大盛況でした！(3/7~14)

3月7日~14日までの7日間、リトアニア共和国を県民の皆様に広く知っていただくための交流事業として、「2024リトアニアウィーク」を千葉県と共催で実施しました。

今回初開催となったこのイベントでは、7日から幕張テクノガーデンのアトリウムの2Fと3Fにリトアニアの有名写真家が撮影した写真パネルや、神田外語大学の学生さんたちのリトアニアスタディツアーの様子をパネルで展示しました。

また、最終日の14日には駐日リトアニア共和国大使館より、オーレリウス・ジーカス特命全権大使及び、クリスティーナ・ミネイキエネ農務官をお招きしての講演会、千葉交響楽団によるピアノ三重奏コンサートなどを行い、117名の方々にお越しいただきました。大盛況に幕を閉じた、2024リトアニアウィークの様子をダイジェストでお伝えします！



14日の朝、幕張テクノガーデンエントランスにはリトアニアと日本の国旗が掲揚されました！いよいよリトアニアウィークの最終日です。

◆千葉交響楽団 ピアノ三重奏によるオープニングコンサート



アトリウムの天井から注がれる3月の暖かい日差しの中、来場者の皆さんとともに大使と農務官を拍手でお迎えし、リトアニア国歌を清聴しました。

春にちなんだクラシック2曲の後に演奏されたのは、リトアニア民謡「クルンパコイス」。どこか懐かしいこの曲は、日本の童謡「手をたたこう」の原曲といわれているのだそうです。千葉にゆかりのある「月の沙漠」「証城寺の狸囃子」の後は、世界平和への思いを込めて「星に願いを」の演奏でしめくられました。

◆大使による講演「知られざる国・リトアニア」



リトアニアで日本語研究の第一人者とされる若手研究者であるジーカス大使は、「大の日本通」。驚くべき流暢な日本語で、リトアニアと日本との関わりについて、また独立運動の末に勝ち取った民主主義革命などの歴史に触れ、現在のウクライナ情勢にも言及しました。経済成長にも成功し、農作物の自給率は、なんと100%。今ではバルト三国の中で最大の経済国となったリトアニアは、公共サービスのデジタル化も進んでいるそうです。来場者の方からは、「リトアニアの人々のぶれない勇気がすばらしい」「大使の日本語を聞いて、リトアニアがとても印象の強い国となった」などの感想をいただきました。

◆農務官による講演「リトアニアの食文化について」



農業と食品産業は、リトアニアの経済発展に重要な役割を果たしており、持続可能な生産方法のノウハウを生かしたベーカリー、飲料、蜂蜜、チーズ、ドライフルーツなどの製造が盛んで、日本では、リトアニア産小麦を使用した冷凍パンや、上質なナチュラル・ミネラルウォーター、ビールなども販売されていることなどが、ミネイキエネ農務官からわかりやすい英語で説明されました。

講演後に配布された、リトアニア産食品サンプルセットには、来場者の方々も大変喜んでくださっていました。

写真で旅するリトアニア @アトリウム2F/3F



3Fアトリウムには、旅行者に人気のリトアニア観光地、ピリニウス旧市街やトラカイ島城などの写真パネルをイーゼルで展示しました。



最終日の14日には、神田外語大学の学生さんたちの活動についてジーカス大使や来場者に説明をしていただきました。



期間中は、2Fアトリウムでランチタイムを過ごしているテナントの方々にもリトアニアの美しい風景をお楽しみいただきました！

★令和6年度 外国人相談体制を強化しています!!



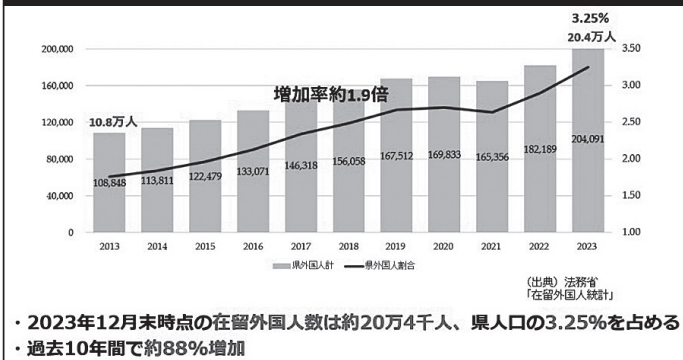
千葉県に住む外国人数が約204,000人に増加し、現在約30人に1人が外国人となっています。当センターでは複雑化している相談内容にも対応できるよう本年4月からは新たに相談チームを設置し、他県の取組状況も参考にしながら、相談体制の強化に取り組んでいます（→ p4参照）。また、法律相談はニーズの高まりを受け、実施回数を15回から24回に拡充しました。

当センターの外国人相談では、ベトナム語、タガログ語、タイ語等、少数言語を含む12言語の電話通訳を活用しており、相談者の国籍は年々多様化しています。

年間の相談件数は1500件を越え、主な相談内容は、在留資格に関するものが最も多く、法律・諸制度、労災や賃金不払い等、就労に関すること、国際結婚・離婚等涉外戸籍、そして日本語教室等と続きます。外国人相談者からしっかりと話を聞き、複雑な内容を整理して、状況に応じて専門機関に繋いでいます。

他県では外国人相談に従事する専門のスタッフが別室で対応しているところもありますが、当センターでは担当職員がセンター内で対応しており、周囲のスタッフの豊富な知識を活用しながら様々な質問に適切に回答できる点が強みとなっています。今後も外国人相談のニーズに対応しながら、相談体制の強化に努めていきたいと思っております。

千葉県の在留外国人数



外国人相談 相談実績

千葉県国際交流センター

種別	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
件数 (件)		1,373	1,539	1,586
相談内容 (上位5位)	1位	出入国	医療	出入国
	2位	就労	出入国	法律・諸制度
	3位	医療	法律・諸制度	就労
	4位	涉外戸籍	涉外戸籍	涉外戸籍
	5位	法律・諸制度	生活一般	日本語教室・講座
※相談者の国籍 (上位5位)	1位	ペルー	日本	日本
	2位	日本	中国	中国
	3位	中国	フィリピン	フィリピン
	4位	フィリピン	ネパール	ペルー
	5位	イギリス	アメリカ	ベトナム

※相談者の国籍（日本）→外国出身当事者の家族、知人、支援者、相談窓口等が代わりに相談



千葉県外国人相談

Tel. 043-297-2966

※外国人相談は平日9～16時に受付けています。
法律相談の日程など、詳細は千葉県国際交流センターのHPをご覧ください。



4月より、新しいセンター長が着任しました



みなさん、はじめまして。2024年4月から国際交流センター長に就任した森竹です。人口が減少傾向にある中で、在住外国人は過去十年で約1.9倍とほぼ倍増しており、当センターの役割もますます高まっております。こうした状況に対応し、本ページ上部に記載のとおり、外国人相談体制の強化を進めております。また、県においては、多様性尊重条例が施行され、外国人を含めたすべての県民が、地域社会の担い手として共に助け合い活躍していくという視点がこれまで以上に重要になっており、日本語教育の推進、国際理解の促進など、多文化共生社会づくりに微力ながら貢献できるよう努めて参りますので、よろしくお願ひ致します。（趣味は下手の横好きのピアノです）

◆チーバくんグローバルパートナーズ任命式（4/18）

千葉県では「国籍や言語、文化、習慣にかかわらず全ての県民が共に安心して暮らし、活躍できる県づくり」を進めており、外国人住民の視点を県施策に活かすとともに、災害時などの多言語での情報発信に協力していただく「チーバくんグローバルパートナーズ」事業を実施しています。今年度は11か国・地域出身の23名が任命され、県の施策に関する意見交換会や県が主催するイベントなどへの参加、情報発信などの活動について活躍が期待されています。



◆「外国につながる子ども若者支援ネットワーク」運営委員会

（2/26, 4/15, 5/15, 6/17）

県内で暮らす外国にルーツのある子どもや若者の課題を共有し、支援者同士の交流を図るための「支援者ネットワーク」が今年2月に発足しました。教育や生活支援、法的支援、母子支援などを行う民間団体などが参加し、運営委員会を重ね、当センターはオブザーバーとして参加しています。

9月21日（土）午後には「第4回ちば地域多文化共生円卓会議」を開催予定で、現在その準備が進められています。

◆日本語学習支援者基礎研修（5/30, 6/6, 13, 20, 27）

日本語学習支援に興味がある方を対象に「令和6年度 日本語学習支援者基礎研修」をオンラインで実施しました。講師は昨年に引き続き、東京にほんごネット代表の有田玲子氏にご担当いただきました。研修には約30名が参加し、日本語教室の役割、やさしい日本語、日本語教室の活動などについて学びました。また各回終了後には講師との交流タイムが設けられ、外国人が具体的に困っていることや、教材と実際に日常で使われているフレーズとの相違点など、様々な質問・意見が飛び交い、これから支援活動を始めるにあたっての土台作りがなされました。



◆他県の外国人相談窓口や関係機関を視察してきました！

★埼玉県国際交流協会の相談窓口（5/9）

常時言語別に相談員がおり、生活相談のほか、役所や医療機関との間の電話仲介通訳も実施したり、週に3回入管相談があったりと、充実した体制の埼玉県。相談員は「傾聴し、内容を整理して、適切な場所へ繋ぐように心掛けている」とのこと。対応方法は私たちの窓口とも共通していると再認識しました。今後もより良い運営のために情報交換していきます。



埼玉国際交流協会の国際交流プラザ

★多文化共生プラザ（新宿）、 FRESC、CINGA（5/16・23）

—CINGAコーディネーターの新居みどりさんの案内のもと、都内3か所を視察しました。

①外国人総合相談支援センター（新宿・多文化共生プラザ内）

東京出入国在留管理局主管のワンストップ型相談センターであり、在留資格を中心に状況に応じた相談ができます。自治体、国際交流協会からの相談にも対応し、私たちの外国人相談からも相談者によくこちらをご案内しています。

②FRESC（外国人在留支援センター）

入管の在留資格相談はもとより、労働問題相談、人権相談、法律相談、就職相談など、関係機関がワンフロアに集まり、外国人が各分野の窓口で直接相談ができます。訪問した当日も多くの方々が利用していました。

③特定非営利活動法人 国際活動市民中心（CINGA）

外国人相談、地域日本語教育をはじめ、在住外国人をめぐる様々な問題解決を目指しているCINGA。相談者への対応方法や相談員同士の情報共有、通訳の利用、案内先の機関などについて、新居さんからいただいたアドバイスをもとに、今後のより良い外国人相談対応や相談体制の構築に努めていきます。

◆多文化共生社会理解促進講座

千葉県国際交流センターでは、(一財)自治体国際化協会の「多文化共生のまちづくり促進令和2年度より小中学校で外国人講師との交流を通して多文化共生社会について子どもたちと理解を深める講座を実施しています。令和5年度からは、医療・福祉施設や特別支援学級など対象を広げ、より多くの子どもたちに多文化共生を体験していただけるよう取り組んでいます。

@多文化共生社会理解促進講座 講師スキルアップ研修会 (5/10)

外国人講師を対象に、よりよい講座を実施するためのヒントを学ぶ研修会を開催しました。ベトナム出身のフォンさん、ペルー出身のカルロスさんからそれぞれ小学生向け/中学生向けのデモ講演をしていただき、「小学生向けには簡単なクイズなどで児童との距離を縮め、双方向のコミュニケーションを取りながら進める」、「中学生は発言させるよりも挙手制にすると生徒も参加しやすい」などのポイントを共有していただきました。その後は、講師から見た運営側への要望や子どもたちが楽しく学ぶためのポイントなどについて意見交換をしました。今回学んだことを踏まえ、講師の方々によりよい講座を作っていきたいと思います。



@千葉大学教育学部附属小学校 (5/28)

帰国学級(4～6年生、16名対象)の子どもたちが当センタースタッフと一緒に「多文化共生社会実現のために自分たちができること」について考えました。カードゲームを使って多様な文化を理解するには、「国」ではなく、「個人(自分以外の誰か)」を理解しようとする姿勢が大切だということを知り、外国人の困りごとなどを共有して解決に向けてできることを考えたり、難しい言葉を「やさしい日本語」に言い換える実践などを行いました。



@八千代市立みどりが丘小学校 (6/4, 7)

オーストラリア、カナダ、ベトナム、ペルー、ブラジル出身の講師5名が、5年生5クラスを対象に講演しました。今回初めて講師として参加されたオーストラリア出身のダウド・マイケルさんは、母国にいる家族のお話や、日本の小学校との比較、オーストラリアの雨林地帯に生息するワニやカエル、砂漠地帯に生息するカンガルーやディンゴなど多様な動物について、スライドや動画でわかりやすく紹介され、「オーストラリアのことを日本の子どもたちに紹介できて嬉しい。また参加したいです。」とお話されていました。



@千葉市立宮崎小学校 (6/12, 13)

インド、中国、ミャンマー、ブラジル出身の講師4名が、2日間に渡り、5年生全4クラスで講演しました。インドのあいさつ「ナマステ」をみんなで両手を合わせながら実践してみたり、中国の「足を使ったジャンケンゲーム」を楽しみながら、講師の出身国について理解を深めました。どのクラスでも終了後にはたくさんの質問が出て、積極的に講座に参加する姿勢が印象的でした。



@千葉市立星久喜中学校 (6/21)

ネパール、インドネシアの講師2名が、2年生2クラスを対象に講演しました。ネパール、インドネシアの紹介に加え、「外国人が日本に住むということ」をテーマに、講師自身が来日したきっかけや日本での生活体験を通じて感じたことなどについてもお話いただきました。インドネシアのシタさんは、大のアニメファンで、「アニメをきっかけに日本語を学び、日本に行きたいと思った」と、自身のエピソードを語っていました。

@船橋市立船橋小学校 (6/28)

日本アジアハラル協会のアフガニスタン出身のアイシャさんが、首都・カブールの美しい風景や国立パークなどの写真を見せながら、イスラム文化が根付いたアフガニスタンの方々の日常について講演しました。子どもたちからは、「イスラム世界の女性が身に着ける「ヒジャブ」と呼ばれるスカーフについて、「夜寝るときもつけるの?」「夏は暑くない?」など質問が出ました。アイシャさんは、「夏は生地の薄いもの、冬は厚いものを着ます。私たちは子どもの頃から身に着けています。みんなが着ている洋服のようなものです」と笑顔で答えていました。



団体活動紹介

イーグルアフガン明德カレッジ

～千葉明德短期大学(千葉市)～

「イーグルアフガン明德カレッジ」は在日アフガニスタン女性を対象とした日本語教室で、NPO法人「イーグル・アフガン復興協会」(理事長 江藤セデカ氏)が千葉明德学園の協力を受け昨年11月から5か月の試行期間を経て今年4月正式開講しました。当センタースタッフが、教室にお邪魔してきましたので、様子をご紹介します！

教室のある千葉明德学園の建物に入ってまず驚いたのは、学習者達が目をキラキラ輝かせて笑顔でやってくること。ここは安心できる居場所なのだ実感しました。母国で十分な教育機会に恵まれなかった彼女たちにとって、この緑豊かなキャンパスで学べることは、嬉しくもあり、誇りでもあるそう。学習者は県内のアフガニスタン人集住地域である四街道市や佐倉市からの参加が多く、電車を乗り継いだり、学習者同士で車に乗り合ったりして通ってきます。

授業は土曜日の午前中に行われます。クラスはレベル別に3クラス(一年生クラス・二年生クラス・三年生クラス)に分かれているほか、母国で識字教育が受けられなかった女性にはマンツーマンで柔軟に対応している様子もみられました。一年生クラスでは、文科省の日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を使い、ペアになって挨拶の練習をしていました。二年生クラスでは講師が「びょういん」など日常で使う単語を読み上げ、それを学習者が書き取る練習をしていました。

また、三年生クラスでは文型を使って短文を作る練習をしており、「家が欲しい」「時間が欲しい」など皆さんの生活の様子が垣間見える授業でした。二年生クラスにボランティアで通訳に入っていたのは、

17歳高校生のAさん。お母さんがアフガニスタン国籍で、家ではダリ語を使用していますが、自身は日本生まれで日本の学校に通っているため日本語が一番得意なようです。通訳の際に苦労するのは、日本語特有のニュアンスや日本文化を背景とする言葉の対訳が見つからない時だ、と言いつつも、授業中は受講者のあいだを行き来しながら、明るい笑顔で懸命にサポートしていました。



この先に明德キャンパスが広がります



初級クラスの授業の様子

学習者の中にはベビーカーに乳児を連れている人も数名おり、希望者は一階の託児スペースで子供を見てもらうこともできます。訪れた日も、小学生位の子供たちが日本語とダリ語を混ぜておしゃべりしながらフラフラプをしたり、ブロックで遊んだり元気に体を動かしていました。

また、今年の5月からは放課後に子供たちの勉強を見たり、母親たちからの生活相談を受けたりするなど、日本語学習の場としてでなく、生活上のサポートにも取り組んでいます。その活動に今後も注目していきたいです。

※現在の学習者登録者は約150名で、待機者も90名程度いるほどで、日本語を学びたい人々の多さに驚きました。その運営はボランティアの皆さんの支えの下に成り立っています。講師やスタッフさんは全てボランティアなので、特に有資格者のボランティアを募集中です。

今後の行事予定

事業	内容	時期(予定)
多文化共生社会理解促進講座	外国人講師による出身国の紹介と、ディスカッション等を中心としたクラス授業の実施	随時
日本語学習支援者基礎講座	日本語ボランティアの活動に役立つ情報の提供や、意見交換等を図るための会議	11～12月
日本語学習支援者フォローアップ講座	日本語学習支援者を対象に、学習支援技術の向上を図る講座	9～11月
千葉県地域日本語教育フォーラム	県民を対象に地域日本語教育の理解を深める為の講演、参加者間の交流・意見交換	10月
語学ボランティア講座	国際会議やイベント等で語学ボランティアとして活動するためのスキルアップ講座	12～3月
国際フェスタCHIBA	国際交流・協力団体の活動成果を展示等により、広く県民に広報	10月
国際交流・協力等ネットワーク会議	民間国際交流団体や市町村国際交流協会担当者による情報交換	9月
国際理解セミナー	県民に広く、国際理解を図る講座	12～2月
外国人相談基礎知識研修	在住外国人の生活支援に役立つ、基礎的事項を学ぶ講座	12～3月
外国人相談担当者意見交換会	県内の外国人相談担当者向けの講演・情報交換	10～3月
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座	10～11月

海外からJICA研修生が千葉県神崎町と佐原地区を訪問!

JICAの「観光マーケティング・プロモーション研修」で来日中の12か国13名の研修員が、6月18日に神崎町の道の駅「発酵の里こうざき」と神崎酒造蔵「鍋店」、佐原地区を視察し、千葉県の観光開発の取組を学びました。

JICA東京では、開発途上国から観光行政関係者を受け入れ、日本で観光マーケティングや観光客誘致の手法を学ぶことを目的とした研修を実施しています。今回の研修でもモンゴル、ペルー、アルメニア、エチオピア、ヨルダン、マラウイ等、12か国から13名の観光行政官等が参加しました。当日はあいにくの雨の中、東京からバスで神崎町に到着した研修員らは、そこから2手に分かれ、それぞれ、道の駅「発酵の里こうざき」と同町にある神崎酒造蔵「鍋店（なべだな）」を訪問しました。



酒蔵の中で説明を聞く研修生の様子

「発酵のまちづくり」をコンセプトに「麴」を観光資源に人々を呼び寄せている神崎町ですが、その立役者の一人が同町で古くから酒蔵を営む神崎酒造蔵「鍋店」です。鍋店に到着した一行は、正面の直営店に入りました。土蔵を改装した趣ある外観のお店の中は、美しく陳列された酒瓶が並んでいます。お店の奥にはセミナー室があり、研修員は5分ほどの動画（英語）で神崎町の歴史や酒造りの工程を学んだ後、白衣と帽子を着て、いよいよ酒蔵見学を開始！江戸時代から使用されている木造の建屋の中に入ると、ふんわりと清らかな良い香りに包まれます。研修員はずらりと並ぶ巨大な酒樽に興味津々。今回の研修の案内をしてくださった鍋店の方の説明にもじっくり耳を傾けていました。酒蔵見学の後は、お楽しみの試飲タイム。鍋店で作られる様々な種類の酒が用意されており、鍋店の大家社長が流暢な英語で直々に日本酒の飲み方を教えて下さり、研修員からもたくさんの質問がありました。



ペルーでの観光開発への想いを語る
ジェニファーさん

日本酒は強すぎるという参加者がいる中、「私の国にはピスコという40度以上の強いお酒があるから、日本酒は飲みやすいわ」と言ってくれたのは、南米のペルー政府観光庁の職員ジェニファー・ステファニー・ピサロ・チーサンさん。視察の感想を聞いたところ、「酒蔵の方々が、自分たちの町、伝統や作る酒に『誇り』を持っていることが印象的だった。ペルーにもピスコをつくるアシエンダと呼ばれる伝統的な農園があるが、（観光資源として）活用しきれていない。今日の視察を通じて、ピスコとアシエンダをプロモーションして、インバウンド客だけでなく、ペルー人にもその歴史的な価値を知ってもらいたい」と、帰国後の展望を語ってくれました。

一行はその後、道の駅「発酵の里こうざき」で合流し、午後は佐原地区を訪問し、伝統的な街並みを保存し、観光資源に活用している様子を視察しました。

今回参加した研修員は、今回の視察を通じた学びを帰国後それぞれの国の観光開発に生かしていく予定です。これらの国でどんな取り組みが生まれるのか、とても楽しみです。

JICA千葉デスクへのお問い合わせは以下までお願いいたします。

千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク 岩沢 久美子

TEL : 043-297-0245 / 090-4024-0441

FAX : 043-297-2753 E-mail : jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp



千葉県から世界へ!

アルゼンチン共和国



※外務省ホームページより引用

今回は、JICA海外協力隊で派遣中の田中良平さんの寄稿です。遠いアルゼンチンの地で、現地の生活を楽しみながら、廃棄物を利用したバイオエネルギー開発に挑む田中さんの活動について教えてくださいました。

任地はサン・ミゲル・デ・トゥクマン



サン・ミゲル・デ・トゥクマン市街の様子
背景にはアンデスの山並み



活動の様子（農業廃棄物を利用した燃料用ペレットを試作中）

様々な有効利用技術、例えばバイオ素材原料や食品添加物などへの変換に向けた研究開発も進められています。それは地域産業の活性化にも資することであり、私自身はそのための調査や指導、助言を行うことを活動のメインとしています。

「アルゼンチンの都市は？」と問えば「ブエノスアイレス」の答えは多いと思いますが、「ほかには？」と聞いてもなかなか出てこない人が多いのではないのでしょうか。私も以前はそうでした、協力隊の任地がサン・ミゲル・デ・トゥクマンに決まるまでは…。ここはアルゼンチン北西部にあるトゥクマン州の州都、人口およそ59万人（州全体では約173万人）、同国7番目に人口の多い地方都市です。トゥクマン州は背後にアンデス山脈を控え、気候としては亜熱帯～温暖湿潤に属します。主な産業は農業と農産物加工、特にサトウキビとレモンの産地です。サトウキビは隣国ブラジルに大きく差を付けられています。レモンはアルゼンチン全体で世界第4位の生産量を誇り（2022年）、そのおよそ八割をトゥクマン州が担っています。

「再生可能・省エネルギー」という職種

私はここトゥクマンに上記の職種で派遣されています。協力隊でも数少ない職種のように、派遣前にも「何をやるんですか？」と皆さんによく聞かれました。当地では国立工業技術院の地域センターが配属先で、前述のサトウキビやレモンなど農業からの廃棄物を利用したバイオエネルギー開発を担うセクションに所属しています。

しかしながら、実際こちらに来てみると、こうした農業廃棄物や副産物に対してエネルギーだけでなく

オール「スペイン語」＆「肉・肉・肉」の生活

さて、ここトゥクマンには日本人はもとより外国人もほとんどいません。そのため、毎日がほぼスペイン語のみ、どこかに行く・物を買う・食べる…くらいは喋れますが、同僚の雑談や世間話には全くついていきません。また、食材も日本を含むアジアっぽい物はほとんど売っていません。内陸のせいかわ介類もほとんどありません。もっともアルゼンチンの人々はほとんど魚を食べないとのこと、いつでもどこでも「肉・肉・肉」の毎日です。元々魚好きの私は「ああ、刺身や焼魚が食べたい！」と日々夢に見ています（千葉県は魚の宝庫！）。そんなこんなですが、ますます何不自由なくトゥクマンの暮らしをエンジョイしています。



名物のエンパナーダ（中身はもちろん肉）
レモンを搾って食べるのがトゥクマン流

Instagram (https://www.instagram.com/chiba_international_center/)、
X (旧Twitter) (https://x.com/chiba_ccb_ic) にて情報発信中！
「千葉県国際交流センター」で検索して、ぜひフォローしてください。



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター

〒261-8501 千葉市美浜区中瀬一丁目3番地 幕張テクノガーデンD棟14階
TEL:043-297-0245 FAX:043-297-2753 E-mail:ied@ccb.or.jp

事務所が
移転しました!

<https://www.mcic.or.jp/へgo!>

センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年3回発行
(7,11,3月)